



東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	南シベリア、ハカス民族の音楽研究ノート
Title in another language	A Research Note on the Music of the Khakas of South Siberia
Aithor(s)	直川礼緒 (TADAGAWA Leo)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 4, p. 37-51
Issu date	2015-03-20
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	http://www.minken1975.com/publication/IE_B04201404.pdf

本pdf内の動画を再生するためには、Adobe社のAdobe Reader（バージョン9以降）が必要です。
無料のAdobe Readerは、以下から入手できます：<http://www.adobe.com/>



正誤表
Errata

掲載日	2015-03-30	
p. 49, l. 38	(正) 1996 О хакасском чатхане. (誤) 1996 О хакссском чатхане.	著者による訂正
p. 50, l. 2	(正) России. (誤) Росии.	著者による訂正

南シベリア、ハカス民族の音楽研究ノート

A Research Note on the Music of the Khakas of South Siberia

直川礼緒 TADAGAWA Leo

南シベリア、ロシア連邦ハカス共和国に住む、テュルク語系の言語を話すハカス（エニセイ キルギス、タダールなどとも呼ばれる）の民族音楽の、一週間のワークショップに参加した。そこで題材として取り上げられた、ハカス音楽の特徴をよくあらわす、いくつかの曲を紹介し、どのような経緯で曲が選ばれ、どのようなレッスンが行われたかを簡単に報告する。

ハカスの国民楽器ともいわれるロング ツィターのチャトハン、2弦の撥弦楽器ホムイスや、2弦の擦弦楽器ウィーハなど、民族楽器の調弦や演奏法についても実例に従って述べ、同時に、英雄叙事詩の演唱に深く関わる、喉歌（倍音唱法）の一種ハイヤ、頭韻を踏んだ即興の四行詩タハパハの演唱についても触れる。

キーワード：チャトハン chatkhan、喉歌 throat-singing、ハイ khai、
英雄叙事詩 heroic epic、タハパハ takhpakh

2014年10月13日から19日、南シベリアに位置するハカス共和国で、外国人（ハカス人およびロシア人以外の人間）がハカスの民族音楽を習うという、「民族音楽芸術に関する創造的ワークショップ творческая лаборатория по народному музыкальному искусству」が開催された。主催は、チャプティコフ記念ハカス共和国立フィルモニヤ。共催としてハカス共和国文化省の名が挙げられており、催しのパンフレットには共和国文化大臣が挨拶を寄せるほか、ロシア連邦文化省の後援も受けたプロジェクトであった。

「フィルハーモニー」というと、日本では、西洋音楽のオーケストラ演奏団体を意味する感が強いが、ロシアでは、西洋音楽のオーケストラ団体の他にも、民族音楽やポップスの演奏家や団体、舞踊団体、劇場とそれに付属する衣装部などを擁する組織である。ハカス共和国の場合は、民族音楽グループを二つ抱えている。このようなフィルモニヤ所属の民族音楽の演奏家4名がワークショップの講師を務めた。

講師陣を代表するのは、ヴァチエスラフ クチェノフ Вячеслав Кученов (1969 生まれ)。フィルモニヤ所属のアンサンブル「ユルゲル Ылгер (プレアデス星団を意味する)」代表であり、今回のプロジェクトの企画者でもある。ロング ツィターの一種チャトハン чатханをはじめ、各種の民族楽器を奏し、喉歌ハイ хай の名手でもある。彫刻家としても知られ、ハカス共和国人民芸術家の称号を持つ。

アンナ ブルナコーヴァ Анна Бурнакова は、「ユルゲル」のメンバーで、クチェノフの妻でもある。アンサンブルではチャトハン、3弦・皮張りの撥弦楽器トプチル ホムイス топчыр хомыс、縦笛ホブィラハ хобырах、歌などを担当。

セルゲイ チャルコーフ Сергей Чарков (1964 生まれ) は、チャトハンや、2 弦の擦弦楽器ウィーハ **ых**、片面の杵太鼓テュール **түүр** などの製作者としても知られる。以前は、クチェノフやブルナコーヴァ、自身の娘ユリヤなどと一緒に演奏活動もしていた。

エヴゲーニイ ウルグバシエフ Евгений Улугбашев (1969 生まれ) は、フィラルモニヤ所属のもう一つのグループの音楽家であり、ハイの名手である。チャトハンや 2 弦の撥弦楽器ホムイス **хомыс** (アガス ホムイス **агас хомыс** 一木のホムイスとも)、口琴ティミルホムイス **тимір хомыс** などの優れた演奏家で、ロシア連邦人民芸術家の称号を持つ。

プログラムとしては、記者会見を皮切りに、期間中毎日レッスンが行われ、合間には、郷土史博物館見学、楽器製作者の工房訪問、チャー-タス古墳見学、創作民族バレエのゲネプロ視聴なども行われた。そして、5 日目には地方の町アスキズの文化会館、最終日 7 日目には、首都アバカンのフィラルモニヤ劇場で、ワークショップの結果を披露する「ガラ-コンサート」が開かれた。

生徒としては、キルギス人 J.A. (ビシケクのコンセルヴァトアールでキルギス民族音楽を教える音楽家。ハカスのチャトハンでキルギスの伝統音楽を演奏する試みにも挑戦中)、コロンビア人 I.V. (ミュージシャン、バシコルトやアルタイなどシベリアの諸民族の音楽文化に興味を持つ)、オーストリア人 C.R. (人類学者、同じくシベリアの諸民族の音楽文化に興味を持ち、ハカス訪問は 4 回目、2007 年のチャトハン シンポジウムに参加)、三名のアメリカ人 J.P. (ハカス語-英語辞書作成のため、ハカスに長期滞在。2005 年のチャトハン シンポジウムに参加)、A. (J.P. のパートナー)、R. (ハカス人の知人を訪問、たまたまワークショップの存在を教えられ、参加) などといったところであった。

日本からは、梅木秀徳 (モンゴル・ホーミー協会認定プロフェッショナル・ホーミー歌手。アルタイやトゥヴァ等の喉歌の歌手でもあり、馬頭琴演奏家でもある) と筆者の 2 名が参加した。

筆者がハカス民族とその音楽を知ったのは、1991 年、ヤクート-サハ共和国 (現サハ共和国) で開催された、第二回国際口琴大会でのことであった。翌 92 年には、ハカスの南隣のトゥヴァで開催された第一回国際ホーメイ シンポジウムに参加する際、ハカスを経由しないと行けないことがわかり、前年に知り合ったハカス人音楽家たちにお世話になった。このシンポの際、トゥヴァで出合ったのが、ウルグバシエフであった。その後、カザフスタン (1994) やトゥヴァ (1995) などでチャルコーフやクチェノフらとも知り合い、1996 年にハカスで開催された第一回国際チャトハン シンポジウムに箏奏者・後藤幹子氏とともに参加するなど親交を深めた。1997 年には、ウルグバシエフ、チャルコーフ、クチェノフらを日本に招聘し、各地で公演を行い、東京公演のライブ音源を「草原の吟遊詩人」として CD 出版。2005 年のチャトハン シンポジウムには、小島美子氏らと参加、翌 2006 年の文化庁主催「国際民俗芸能フェスティバル」では、ウルグバシエフ、チャルコーフ、クチェノフらの再来日に翻訳スタッフとして関わった。2013 年から梅木秀徳と、ハカスやアルタイの音楽を演奏するユニット「アルトインタイガ」を結成し、活動している。

このように、音楽的素養も違い、またハカス音楽に触れてきた期間も異なる外国人が、高々 4-5 日程度でハカス音楽を習得し、ハカス人の前で披露するまでに至るものだろうか。一種無謀とも言えるこのような局面において、講師であるハカス人音楽家たちは、どのような曲を選び、どのようにそのレッスンを行うのか。本研究ノートでは、課題として取り上げられた曲の実例をいくつか取り上げ、ハカス音楽理解の入り口としたい。

1. 大いなる天空の星 Хан тигірінің чылтызы

ハカス民族は、テュルク系の言語を話す民族である。人口約7万人、共和国の人口の一割を占める。南隣のトゥヴァやその南のモンゴルとは異なり、チベット仏教の影響は見られず、より古い、シャマニズムやテングリ信仰を色濃く残している。テングリ、即ち天空は、ハカス語でティギル **тигір** である。

この曲は、クチェノフの祖父が演唱していた。コミュニストがハカスの地にやってきて、富を分配するために圧政を布いた頃の「プロテストソング」。CD「Sabjilar: Syr Chome」に収められているものを、参加者のJ.P.が習いたい、という希望を出し、採用された。

動画で、クチェノフが演奏しているのは、2弦のリュート「ホムイス」。キルギスのコムズ(3弦リ्यूト)、カザフのコプイズ(2弦フィドル)、サハのホムス(口琴)など、テュルク語系をはじめとするユーラシアの諸民族に広がる、様々な楽器の呼称と深く関わる語である。調弦は、カザフのドンブラ、アルタイのトプシュールなどと同じく、4度を基本とする。本演唱では、第1弦(高音弦)がEs、第2弦(低音弦)がBである。右手人差指によるダウンストロークのみで弾いている。第1節はハイの中でも超低音のチョーンハイ **чоон хай**(大きいハイの意)、第2節はハイ、第3節は高音域の地声で歌っている。



写真1(動画): 大いなる天空の星
クチェノフ: ホムイス、ハイ、歌

Хан тигірінің чылтызы
Хара ла полза сығадыр
Хара пас ирнің чобады
Хайда ла полза халадыр

大いなる天空の星は
暗くなると姿を見せる
黒髪の人への侮蔑に対する怒りは
心に残さずどこかへ忘れよ

Ах тигірінің чылтызы
Айлығ харазын сығадыр
Албат ирнің чобады
Хайда ла полза халадыр

白き天空の星は
月夜に姿を見せる
民の怒りは
心に残さずどこかへ忘れよ

第三節の歌詞は譜例1を参照。大意は、「白き草原を歩くとき／白き花が揺れている／民の怒りをみるとき／目から涙がこぼれる」。頭韻の踏み方に注目していただきたい。

ワークショップでは、J.P.と梅木が歌を、筆者はホムイス伴奏を習った。筆者にとっては、CDで聞いたことがある程度で、全く新しい曲であったので、ビデオに演奏例を録画し、その日の夜に採譜して練習する、という手法をとった。譜例1は、その際のもので、動画の演唱とは、「1小節」のストロークの数や、間の取り方など、細部が異なっている。

生徒3名による実際のステージの演奏は、また異なったアレンジとなっている。その模様は、アスキズで行われたガラコンサートの模様を参照していただきたい。

<https://www.youtube.com/watch?v=fU9yfHFOVFs> (参照 2015-1-31)

14 Ха · ра ла по · лза сы · га · а · дыр
Ай · лыг ха · ра · зын сы · га · а · дыр

18 Ха · · · ра пас и · рниң чо · ба · ды Хай · да ла полза
А · · · лба · ат и · рниң чо · ба · ды Хай · да ла полза

22 ха · ла · а · дыр Хай · да ла полза ха · ла · а ·
ха · ла · а · дыр Хай · да ла полза ха · ла · а ·

↓
1回目は全休符
2回目は演奏

2. 谷々に沿って Ойдаң ойға

オーストリア人 C.R. に対して、講師ブルナコーヴァ側から与えられた課題。筆者もレッスンを受けた。

頭韻を踏む即興の四行詩を、一定の旋律に載せて歌う、タハパハ тахпах というジャンルの曲。伴奏はハカスの国民楽器的な位置を占める、チャトハンというロング ツイターである。動画でブルナコーヴァが演奏している楽器は、弦の数が 12 本に増やしてあるが、伝統的には 6~7



写真 2 (動画): 谷々に沿って
ブルナコーヴァ: チャトハン、歌

弦程度。実際に本演奏に関わっている 5(7) 弦の調弦は、下のとおりに。音階の途中の音が第 1 弦 (奏者から一番遠い弦) に持ってこられている、変則的なものだが、日本の箏とも共通する並び方である。この並びが、初心者には非常に大きな障壁となるのは事実である。騎馬牧畜民らしく、琴柱には羊の後足の踝 (くるぶし) の骨を使用している。

低音の第 2 弦と、旋律用の第 1 弦は右手人差指の腹側に、他の旋律弦 4,5,(6,7) は親指の腹側に爪で弾き、合いの手的な 2・3 弦の和音は、人差指の爪で背側に弾く (譜例 2 の A)。16 分音符で刻む場合もある。5 弦は、必要に応じ「押し手」の技法で半音上げる (↑)。



Ойдаң ойға ойлаза
Уйазы илбек торимнің
Оңдайли киліп чоохтасханда
Оралбадах арғызым.

谷々に沿って広がる景色のように
私の馬の背は広い
私達は友好的にお話しています
だから私に触らないで、あなた。

(第二節以降 省略)

譜例 2 Ойдаң ойға

Vocal

О - ойдаң ой - га ой - ла - за - а У - йа - зы ил - бе - ек то - ри - мнің
Оң - дайли ки - ліп чоо - хтасхан - да - а О - ра - ал - ба - да - ах а - ргы - зым.

Chatkhan

3. 黒き土とともに Хара чирдең

音楽初心者のアメリカ人 R. に対して、講師の側から与えられた曲。経典の朗詠を思わせる、二音のメロディを、ハイと呼ばれる喉歌の技法で歌い、ホムイスで伴奏。本演唱では、調弦は第1弦 E、第2弦 H の4度。表拍の第2弦は右手親指で、裏拍の第1・2弦は同時に人差指で爪弾いている。

ハウイロハン(ハイラハンとも)は、熊から生まれたという伝説をもつ、人間の守り神である。ほぼ同内容の歌詞は、CD「草原の吟遊詩人」の1曲目で聞かれるが、演唱スタイルや楽器アレンジは全く異なる。



写真3(動画): 黒き土とともに
クチェノフ: ホムイス、ハイ

Хара чирдең хада пүткезиң	黒き土とともに生まれた
Хан тигірдең хоза төреезиң	偉大なる天空(ハン ティギル)とともに生まれた
Пурғус тағдаң син сыхазың	ブルグス山からやってきた
Сыннаң сынға сегіргезиң	山から山へと飛び越えた
Хауїроханым	我がハウイロハンよ

第二節以降省略。大意は「深い森林(タイガ)を抜けていた/ヒメマスを食べていた/白い羊はあなたの食べ物/イルベン草を吸っていた/我がハウイロハンよ」「私と一緒にここに来た/私と一緒に歌え/私の心から出る声を/喉から引き出せ/我がハウイロハンよ」

4. 若者の歌 Оолнің ыры

婚礼の歌。コロンビア人 I.V. が習得を試みた。伴奏の擦弦楽器ウイーハの弦は、馬の尻尾を束ねたもの。モンゴルのモリンホールに近い楽器だが、弦の高低が、モリンホールとは逆で、向かって左が低音(本演唱では D)、右が高音(G)である。左手の指先は指板に立て、爪の背側で弦を脇から押す。低音弦はメロディを、高音弦は解放でドローン奏でる。



写真4(動画): 若者の歌
チャルコーフ: ウイーハ、歌

Ах порам чортхан чирлерде	白い茸毛(の馬)が早足で駆けるところ
Ах порчо пастығ от өскей	白い花をちりばめた、草が育ちますように
Алар минің хызыма	妻に迎えたい娘の
Алтын порағлиғ сас өссін	髪が金色に輝きますように
Көк порам чортхан чирлерде	青い茸毛(の馬)が早足で駆けるところ
Көк порчо пастығ от өскей	青い花をちりばめた、草が育ちますように
Көленгеним минің хызыма	お気に入りの娘の
Көмүс порағлиғ сас өссін	髪が銀色に輝きますように

5. カエルちゃん Пагаҗах

CD「草原の吟遊詩人」、「Sabjilar: Syr Chome」に楽器アレンジと歌詞の異なるものが収録されている。J.P. と A. の希望で取り上げられた。チャトハンは、譜例 2 と同じく B 調のものであるが、大きな違いは、譜例 2 で 1 弦に設定されている C 音が、親指で演奏するメロディ弦群に並んで入っていることである。新しい調弦であると考えられる。



写真 5 (動画): カエルちゃん
クチェノフ: チャトハン、歌

Пагаҗах, пагаҗах, пагаҗах, пагаҗах
Ноға синің пазың улуғ?

Ноға пазым улуғ полбаҗаң,

Хаастар тіккен түлгү пөрік кис чөргем. (第二節以降 省略)

カエルちゃん、カエルちゃん

どうしてお前のおつむは大きいの？

どうしておいらのおつむは、大きくちゃいけないんだい。

ハース (カチン) 人の縫った狐の毛皮の帽子をかぶっていたんだ。

第二節以降は、同形式で「どうしてお前の背中 (おせな) は広いの？／熱い揚げパンを山ほど担いでたんだ。」「どうしてお前のあんよは曲がっているの？／サガイ人の革の長靴を履いていたんだ。」といったやりとりが続く、カエルの鳴き真似を含むユーモラスな歌。

6. 故郷に捧げる Чиріме

歌詞、翻訳略。ウルグバシエフのCD-R「Белоснежные тасхылы」に収録されているもので、梅木秀徳の希望により取り上げられた。新曲の習得というよりは、ある程度習得済みの演唱に、磨きをかける形のレッスンとなった。曲自体は、ウルグバシエフによる新しい作品である。短調系のメロディ、ちょっとした変拍子、喉歌と通常の声の使い分けなど、ハカス音楽のエッセンスが盛り込まれている。



写真 6 (動画): 故郷に捧げる
ウルグバシエフ: ホムイス、ハイ、歌

ホムイスの調弦は、第 1 弦 As、第 2 弦 Es に近い 4 度。表拍のダウンストロークは親指を除く四本の指、裏拍のアップストロークは親指の爪の背で行われている。

7. 我が生まれ故郷 Төреен чирім

CD「草原の吟遊詩人」所収の「葦毛の馬のアイ チャルィハ汗」物語の一部、主人公の英雄が歌う歌として演唱されている。梅木と筆者のデュオ「アルティン タイガ」もレパー

トリーとしており、やはり細かいニュアンス等に磨きをかけるレッスンとなった。CDでは、祖先の霊に対して数節を喉歌ハイで歌い、同じ歌詞を、人間の聞き手に対して通常の声で語る、という、伝統的なハカスの英雄叙事詩のスタイルで演唱されているが、動画では、語りは省略されている。喉歌が、英雄叙事詩の演唱に深く関わる点は、近隣のトゥヴァのホーメイ、モンゴルのホーミーなどとは異なる特徴であり、アルタイやショール（シヨル）の文化との関わりを強く感じさせる。



写真7(動画): 我が生まれ故郷
クチェノフ: ホムイス、ハイ、歌

ホムイスの調弦は、第1弦 Fis、第2弦 Cis に近い4度。間奏と後奏部では、高音の笛のような倍音を響かせる、喉歌スィグイルトイプ **сығыртып** の技法も使われている。

Төрөөн чирим сибер чир
Күргөнниг чаазыларда турыпча
Өскөн чирим иптіг чир
Хара пас чоным чурт салыпча,
чурт салыпча.

美しき我が大地は
大きな塚に囲まれ
我を育みし故郷には
黒髪の民が暮らす。

Тадар чонның оолары
Алыптарның чолын паслапча
Күлүк чонның хыстары
Хара пас чонны азырапча,
өскіріпче.

タダールの民の男の子は
長じて勇者の教えに従い
機知に富む民の女の子は
長じて母となる。

Харағы сіліг чоным миннің
Пай тайғанаң сыххан чоным
Хорай-морай өскөн чирім
Чир үстүнде саблан турғай,
(Пай тайғанаң сыххан чоным)
Саблан турғай
Тадар чоным
Күлүк чоным
Халык чоным.

眼美しき我が民は
豊かなる森林(タイガ)より生まれ出た
我らの大地「ホライーモライ」が
世界の中で讃えられますように

讃えられますように
我がタダールの民よ
機知に富む民よ
心広き我が民よ。

Ах кикчінің үттіг үні
Ах чаазыларға сип турзын
Арғал чонның сарыннары
Ах пулуттарға чит турзын.

白鷺の甲高き鳴き声が
白き草原(ステップ)に響き渡りますように
偉大なる民の歌が
白き雲にまで届きますように。

Хара хустың табызы
Хара чирге хазал турзын
Халых чонның сөстері
Хан тигірге чит турзын.

黒鷹の笛のごとき鳴き声が
黒き大地に鳴り渡りますように
美しき民の祈りが
天空(ハン ティギル)にまで届きますように。

おわりに

本稿で取り上げた例に見られるとおり、現代のハカスの音楽は、それほど「わかりにくい」ものではない。西洋音楽の概念をあてはめることによって、充分理解可能な音楽であるように見える。しかしながら、元来はどのような姿であったのか。

例えば、ホムイスはもともとフレットのない楽器であり、精度の高いフレット付きのものが作られるようになったのは、ここ20～30年のことである。このことは、ハカス音楽の「発展」に大きく寄与していると考えられる。反面、フレットのないホムイスで使用されていたと考えられる、長三度でも短三度でもないミの音が失われた面もあることについて、熟考する必要があるだろう。

伝統的には、開放弦でドローンを奏でていたといわれる、ホムイスの低音弦についても、現代の奏者は、好んで高音のフレットを押さえている。これは、カザフスタンの音楽院に留学し、ドンブラの奏法を学んだウルグバシエフなどの影響がどの程度あるのか。

宗教的には、チベット仏教の影響が全く見られないハカスで、本稿で取り上げた「黒き土とともに」の演唱のような、仏教の経典の朗誦のようなスタイルが見られるのは、偶然か、それとも、いつごろ、どこからの影響による、とわかっているのか。

また、ハカスでは、曲の個人所有の概念が強いように感じられる。古来、英雄叙事詩語りにおいても、ある演唱は、演唱者による自作自演の即興部分が多かれ少なかれ含まれており、題名やあらすじが「同じ」物語であったとしても、聴衆の前に提示される姿は、毎回異なる。では、どこからどこまでが「ある個人の創作物」なのか。それがどこまでいくと、その個人以外が公式には演奏しなくなるのか。また、どの要素の共通性をもって、ある二つの演唱が「同じ曲」かどうかをハカス音楽の当事者は判断するのか。

今後の研究には、これらの問題点に充分注意を払う必要がある。

※譜例の清書にあたっては、東京音大付属民族音楽研究所の甲田潤研究員にご協力いただいた。

参考文献：

小島，美子．

2006 ハカスのチャトハン（箏）とハイ（喉歌）ハカス伝統音楽グループ・ハイジラル．「平成17年度国際民俗芸能フェスティバル」公演プログラム．p. 6.

荻原，眞子．

1997 ハカスの英雄叙事詩について、「草原の吟遊詩人 アジア中央部 ハカス民族のチャトハン（箏）とハイ（喉歌）」公演プログラム（同公演実行委員会事務局）．（以下＜プログラム＞） p. 13.

直川，礼緒．

1990 中央シベリア ハカスの口琴．口琴ジャーナル（日本口琴協会）．no. 1, p. 17.

1993 アジア中央部の喉歌と楽器．口琴ジャーナル（日本口琴協会）．no. 7, p. 4-7.

1996a ハカス共和国のチャトハン（箏（こと））シンポジウム．窓（ナウカ）．no. 99, p. 12-15.

1996b ハカス共和国のチャトハン（箏）シンポジウム．

<http://www.koukin.jp/NKKContents/Katsudou/event/khakas/sympo.html>

(1996a のオンライン版。参照 2015-1-20).

1997a 雄大な草原を渡る風とともに伝承されてきた民族音楽 アジア発見 南シベリア
ハカス共和国. ひょうご舞台芸術 (財団法人 兵庫現代芸術劇場). no. 11, p. 8-9.

1997b ハカスの喉歌と楽器. <プログラム>. p. 14.

1997c チャトハンとハイ ハカスの箏と喉歌. VHS ビデオ解説. (東京シネマ新社).

2004 草原の吟遊詩人: アジア中央部 ハカス民族のチャトハン (箏) とハイ (喉歌).
CD 解説. (日本口琴協会).

田中, 克彦.

1997 ハカスという国. <プログラム>. p. 12.

巻上, 公一.

1997 トゥヴァで出会ったハカスのハイ. <プログラム>. p. 15.

森田, 稔.

1997 アジア中央部の喉歌. <プログラム>. p. 12.

山口, 博.

2004 そこには太陽信仰が残り、シャーマンが息づいていた ハカシヤ・トゥーヴァ歴史紀行.
歴史街道 (PHP 研究所). no. 192, p. 116-121.

Levin, Theodore with Süzükei, Valentina.

2006 Where Rivers and Mountains Sing. Indiana University Press. (CD/DVD 付き)

Арчимаева, Мария.

2013 Народные истоки тахпаха. Хакасское книжное издательство.

Бутанаев, Виктор.

1995 Хакасы. ИНСАН.

Вертков, Константин 他.

1975 Атлас музыкальных инструментов народов СССР. Музыка.

Иптышева, Н.

?(2002 以降) Пьесы для хомуса. ?

Казачинова, Галина.

2007 Чатхана сказочного звук. ДиалогСибирь-Абакан.

Кенель, А.

2007 Хакасский песенный фольклор. ДиалогСибирь-Абакан.

Курбижекова, Альбина.

2010 Алтын тамырлар. Дом литераторов Хакасии. (CD 付き)

Кызласов, Л.

1993 История Хакасии с древнейших времен до 1917 г. Наука.

Романенко, Т. [ред.]

1997 Хакасский героический эпос "Ай хуучин". Наука. (レコード付き)

Стоянов, Анатолий.

1996 О хакасском чатхане. Хакасское книжное издательство.

Топоев, Петр.

2004 Хобырах. Хакас чире. (CD 付き)

Чагин, Владимир [ред.]

2007 Три века - 300 лет вхождения Хакасии в состав России. Платина.

Челбораков, Георгий.

1996 Самоучитель игры на чатхане. Республиканский научно-методический центр народного творчества.

2007 Хрестоматия для чатхана. ДиалогСибирь-Абакан.

参考CD

1. ハカス音楽のCD, CD-R

- ・草原の吟遊詩人：アジア中央部 ハカス民族のチャトハン（箏）とハイ（喉歌）。日本口琴協会 2004, NKK004。クチェノフ [K]、チャルコーフ [C]、ウルグバシエフ [U] 他。録音は1997年。
- ・Ўлгер пайўн өме: Ағын хустар. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。[K]、ブルナコーヴァ [B] 他。2008年入手。
- ・Ulgüere. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。[K]、[B] 他。2014年入手。
- ・Ensemble Ülger: Traditional Songs of the Khakas People – Vol. I. Face Music 2013, FM50049. [K]、[B] 他。
- ・Ensemble Ülger: Traditional Songs of the Khakas People – Vol. II. Face Music 2013, FM50050. [K]、[B] 他。
- ・Ensemble Ülger: Traditional Songs of the Khakas People – Vol. III. Face Music 2013, FM50061. [K]、[B] 他。
- ・Sabjilar: Syr Chome. Pure Nature Music 1999, PNM CD003. [K]、[C] 他。
- ・Sabjilar: Saddle Creak. 2002. 発行者、CD-R 番号不明。[K]、[C]、[B]。
- ・Сабчылар пайўн өме: Ат оғыры. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。[K]、[C]、[B]。上記 CD-R "Saddle Creak" と同内容。
- ・Khyrkhaas: Songs of our Elders. Seven Star Records 2005, SSCD 50. [C]、Y. チャルコーヴァ。
- ・Charkova, Yulia: Chitī khylllygh chadyghanym My seven-stringed chadyghan. PAN Records 2011, PAN 2114. Y. チャルコーヴァ。
- ・Ансамбль Ульгэр: Айдым. Dom Records 2004, CDDOMA 03012, [U] 他。
- ・Улугбашев, Евгений: Белоснежные тасхылы. 2004. 発行者、CD-R 番号不明。[U]。
- ・"Айланыс" Хакасский фольклорный ансамбль. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。A. サモジコフ、O. チェボダーエフ他。2008年入手。
- ・Аран-чула: Spirit the leader in the area of a life. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。O. チェボダーエフ他。2010年入手。
- ・Tom, Sibdey: Чуртас салғағы. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。S. トム。
- ・Группа "Уч-Сумер": Горловое пение... Алтайские хакасские песни. 発行者、発行年、CD-R 番号不明。録音は2000年。S. トム他、ハカス人2名、アルタイ人1名の混成グループ。
- ・Ensemble Üch-Süme-R: Traditional Songs of the Khakass and the Altai People. Face Music 2002, FM50038. 上記 CD-R と同グループだが、メンバーに異動あり。
- ・Üch-Süme-R: Umai - Traditional Music of Khakassia and Altai. Sketis Music 2010,

SKMR-078. 上記 CD-R と同グループだが、メンバーに再異動あり。

2. ハカス音楽が数曲収められたCD

- Voyage en U.R.S.S. 6. Le Chant du monde 1990, LDX 274925. [28]にS.カドイシエフのチャトハンの曲。オリジナルは、1985年(?)の同社によるLP版。
- Матаня - Аутентичный инструментальный фольклор России. Boheme Music 1999, CDBMR 906068. [9]-[11]にS.カトイシエフ(カドイシエフの誤記か)のチャトハンとハイ演唱、プイルグイ他の鹿寄せ笛。録音は1974年。
- Tien Jaar de Wandelende Tak. VPRO 1994, EW 9411. [4]に[U]のチャトハンとハイ。
- The Silk Road – A Musical Caravan. Smithsonian Folkways Recordings 2002, SFW CD 40438. Disk 2 [2]に[U]、[4]に[K]、[C]、[B]、他。

参考 DVD

- Идимешева, Нина & Улугбашев, Евгений: Тахпах - душа народа. 発行者、発行年、DVD-R 番号不明。[U] 他。2009年撮影。
- Том, Сибдей: Видеоуроки игры на чатхане. Сибдей Том, 2010, DVD-R 番号不明。S. トム。
- Курочка, Юрий: Чадыган. Хакасфильм, 2013, DVD-R 番号不明。P. クルビジェコフ、S. カドイシエフ、[K]、[U] 他。

参考サイト

- <http://ulgerome.com/> (参照 2015-1-31)
- http://www.liesbetnyssen.nl/pages/media_start.html (参照 2015-1-31)

I had an opportunity to take part in a one-week workshop on music of the Khakas (also known as Yenisei Kirghiz and Tadar) people who speak a Turkic language, live in the Khakas Republic, Russian Federation, located in southern Siberia. In the article, I introduce several repertoires of the workshop, and report how they were chosen and how lessons were made.

Explaining tunings and basic playing techniques of the Khakas traditional musical instruments such as *chatkhan* (long zither), *khomys* (two-stringed lute) and *yykh* (two-stringed fiddle) according to the demonstration examples, I also mention on the *khai*, a style of throat-singing (overtone singing) which has deep connection to the heroic epic execution, and on the *takhpakh*, improvised quatrain with alliteration.

(本学附属民族音楽研究所社会人講座講師、日本口琴協会代表)

